

2023年
3月13日 No.1694



週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION <http://www.kyoiku-shiryō.co.jp>



潮流

「できた」の芽を育てる教材を開発

株式会社オフィスサニー代表 高橋淳一

資料

①第11期教育課程部会の議論における主な意見について(案)

——中央教育審議会・教育課程部会

②令和4年度教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査結果等を踏まえた「令和3年度教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査結果等に係る留意事項について(令和4年局長通知)」の補足事項について(通知)

——文部科学省

CONTENTS

▶ 2 潮流

「できた」の芽を育てる教材を開発

高橋淳一(株式会社オフィスサニー代表)

▶ 5 解説・ニュースの焦点

○教員養成学部の実務家教員を2割以上に

○「教学マネジメント指針」に大学入試関連を追補

編集部

▶ 8 特別企画

青少年の体験活動を応援する企業の実績とは?

編集部

▶ 10 特別資料

義務教育の在り方ワーキンググループ論点整理案

編集部

▶ 12 生涯発達時代のよくわかる! 発達障がい入門

高等学校における特別支援教育の現状と課題①

一学校生活における合理的配慮の実際一

水内豊和(帝京大学文学部心理学准教授)

▶ 14 校長講話

校長講話の存在意義と赴任当初の講話

関根郁夫(公立学校共済組合監事、埼玉県立浦和高等学校元校長)

▶ 16 実践! 校長塾

新任校長十か条③

山崎直人(長崎市立諏訪小学校校長)

▶ 19 資料

①第11期教育課程部会の議論における主な意見について(案)

中央教育審議会・教育課程部会

②令和4年度教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査結果等を踏まえた「令和3年度教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査結果等に係る留意事項について(令和4年局長通知)」の補足事項について(通知)

文部科学省

▶ 35 教育問題法律相談

子ども基本法施行に向けて「子どもの意見を聴く」

佐藤香代(弁護士)

▶ 36 学校事務新時代

GIGAスクール・教育ICTと事務職員⑧

保護者負担(私費)に依存しないICT機器整備へ

柳澤清香(埼玉県川口市立八幡木中学校事務主幹)

▶ 38 学級・授業づくり 虎の巻

異動が決まったら、まずすべきこと

俵原正仁(兵庫県芦屋市立山手小学校校長)

▶ 40 管理職養成 教頭実務ガイダンス

新たな学校体制をつくる

井部良一(全国公立学校教頭会事務局長)

▶ 42 高校現場最前線

現場で実習「デュアルシステム科」

福田健昌(東京都立六郷工科高等学校校長)

▶ 44 現場の課題に応える教育機関

対話を通して教員のマインドを変え、

次の一歩につながる行動を促す

塩畑貴志(NPO法人教員支援ネットワーク-KNIT代表理事)②

▶ 46 データで見る教育

教職員の状況

▶ 47 BOOK

『“正しい”を疑え!』

『Just because I am | 私が英語ニュース教材を作る理由』

▶ 48 自著を語る

『部活動顧問の断り方』

西川 純(教育学者、上越教育大学大学院学校教育研究科教授)

▶ 51 品川裕香の共感教室

高性能AIが常態化した社会を生き抜く準備はできている?

品川裕香(教育ジャーナリスト)

▶ 52 マイオピニオン

ウェルビーイングと教育

菱村幸彦(国立教育政策研究所名誉所員)

潮流

株式会社オフィスサニー代表

たかはしじゅんいち
高橋淳一さんに聞く



「できた」の芽を 育てる教材を開発

バーコ印刷という技術を使って
凹凸のある塗り絵やドリルを開発。
手指の感覚を育てるとともに
達成感が持てる教材を作ってきた。

1971年東京都荒川区生まれ。株式会社宝印刷入社。父親の急病にともない家業であった『サニー写植』に入社後、2002年に有限会社オフィスサニーを設立し、代表取締役。2011年に自社ブランド『plus Orange』を立ち上げる。「紙のクリアファイル」「革のような紙のブックカバー」「セレクトノート(後のえらべる帳)」「里紙袋」などを開発し、2013年「印傳のような紙のブックカバー」を発売し、第8回TASKものづくり大賞にて『優秀賞』を受賞。

塗り絵の線に凹凸を付ける

——最近、「手指で感じる凹凸おうちらぬりえ」という教材を開発されました。

高橋 手先が器用な子どもや大人であれば、塗り絵の線に沿って、はみ出さずに色を塗ることは、それほど難しいことはありません。ところが、手先が不器用といわれる子どもたちにとっては、はみ出さずに色を塗ること自体が難しいのです。そこで美術科の先生のアドバイスを基に、「手指で感じる凹凸ぬりえ」を開発し、今年3月から発売を開始しました。

私たちの会社は印刷業が専門で、さまざまな印刷技術を活かした商品を作ってきました。バーコ印刷という、印刷物の表面に樹脂の粉を塗布し、熱処理をすることによって、透明な盛り上がりに変化させる技法があります。この技術を使って、絵の輪郭に凹凸加工をすることで、はみ出しそうになると、色鉛筆などの先が盛り上がり当たることで、「あつ、はみ出しそうだ」と、手指の感覚で気づくことができます。線の近くまできれいに塗ることが難しい子どもでも、きれいな仕上がりになるので、「できた!」「いつもよりきれいに塗れた」と、塗り絵が楽しくなります。

——「手指で感じるおなまえドリル」という、

オーダーメイドのドリルも開発されたと聞きました。

高橋 「凹凸ぬりえ」と同じ技術を使って、自分の名前のひらがなが練習できるようにしたドリルです。例えば、「たかはしじゅんいち」という自分の名前のひらがなを凹凸のある輪郭に沿って書く練習ができるようにしました。数字と色で書く順番が分かるようになっていきます。自分の名前を書く最初の練習なので、「はね」「はらい」などがない書体にしており、紙も鉛筆で書きやすいざらざらとしたものになっています。塗り絵と同じように、手指の感触で「はみ出しそう」「はみ出した」などの刺激があるため、自分で気をつけながら書くことができます。鉛筆で書く前に自分の指でなぞって練習することも効果的です。

大手の教材メーカーでは、一人一人の子どもの名前に対応したドリルでは採算が取れませんが、私たちのように小回りの利く小さな印刷屋ならオーダーメイドの教材も作れます。そのための独自のシステムも開発しました。このドリルは、縦書き用と横書き用の2種類があり、凹凸ありのシート、凹凸なしのシート、グレーの文字に沿って書くシートで各20回練習できるセットにしました。

「凹凸ぬりえ」も「凹凸おなまえドリル」も、

作業療法士や美術科の先生で公認心理師の方などの専門家に監修していただきました。また安価な価格に押さえて、家庭や学校などで活用しやすくしました。

運筆などの基礎練習に

——これまでは、どのような教材などを作られてきたのですか。

高橋 数年前から、私たちの持っているパソコン印刷などの技術と、お付き合いのあった作業療法士の方のアイデアをつなげる形で、いろいろと教材を作ってきました。例えば、文字を書く前に、運筆の基礎的な練習ができるドリルなどがあります。文字を書くために必要な手指の巧緻性を高めたり、粗大運動から微細運動に進めていく練習ができたりする内容です。次の段階は「まねして書く」という模写です。発達に課題のある子どもの場合、ワーキングメモリー（作業記憶）が弱いケースがあるため、それを鍛えるように、例えば最初は「○」の形を模写し、次の段階では円の部分が一部消えている形を見て、それを補いながら模写していくなど、ワーキングメモリを鍛えるためのドリルなどを作ってきました。

——「サニーステーション」というオンラ

インなどで学び合う場を作る活動にも取り組みました。

高橋 これまで、作業療法士さんなど、現場の専門家のアイデアを基に、「できるびより」というブランドで、さまざまな教材を作ってきましたが、私たちは療育や教育分野の専門家ではありませんので、自分たちが作った教材の良さを、どう社会にアピールしたらよいか、と考えてきました。そこで、私たちが専門家から学ぶだけでなく、療育や教育、保育など、さまざまな分野の現場の方同士が、互いに学び合う場をつくっていく必要があるのではと考えて、「サニーステーション」というプラットフォームを今年の1月に作りました。これは、子ども支援に関わる全ての人たちをつなげる、発達支援や、学習支援に役立つ情報を発信する場にすることが目的です。

——現在は、どのような活動をされているのですか。

高橋 「サニーステーション」は会員登録制の情報発信サイトです。学校の先生方なども参加されています。発達障害についての情報や指導の悩みなどを解決したり、情報を交流したりするために活用されているようです。コンテンツとしては、以前から全国5都市の会場に集まって受講する対面型のセミナーで

発信していた内容に関連するものを皮切りに、コロナ禍のもとで全国、どこからでもリアルタイムに視聴できる「ライブ配信」や「Zoom」を利用した配信などを行っています。Zoom配信では、参加者からの質問を受けたり、ワークショップ形式で学び合ったりすることができません。セミナーや講演の視聴のためには、会員登録していただく必要があります。こうした配信内容を録画して、後日に注文に応じて配信するオンデマンド形式のものもあります。

子どもの支援に特化して情報発信

——学校の先生向けのコンテンツとしてはどのようなものがありますか。

高橋 コロナ禍以前は、子どもの療育専門の作業療法士の方と一緒に、対面形式で発達支援セミナーを開催して、私たちの会社で開発・製造した支援教材をセミナー会場で展示・販売していました。今後は、弊社関連のコンテンツだけでなく、子どもの発達支援に関わるさまざまな人たちが、理解や知識を深める場にしたいと思います。

「サニーステーション」では、コンテンツに、保護者向けや作業療法士向けなどのほかに、学校の先生向けの「タグ」も付けています

ので、特別支援学級や普通学級などの子どものための発達支援に関わる情報やセミナーなどが活用できると思います。なお、手先が不器用な子どもへの支援のためのセミナーも予定しており、発達支援についての先生方や専門家のネットワークができるようにしたいと考えています。

——これまでは専門家にしか知られていなかった発達上の問題なども、情報交流ができる場ができることで、広く知られる機会になるとよいですね。

高橋 文字や書写に関して、目の専門家の方から、「斜めの線が上手に書けない子ども」のことを聞いたことがあります。例えば、ひらがなの「く」や「へ」は、一筆で書ける簡単な字のように見えますが、斜めの線が書きづらい子どもにとっては、まずは縦横の直線だけで書ける「い」や「こ」のような字から学習・習熟した方が効果も大きいそうです。こうした知見を踏まえて、私たちのドリルでも、学習するひらがなの順番を、その子どもの発達に合わせるなどの工夫をしてきました。今後、大学などの研究者の方などの連携もさらに広げて、現場で効果があるとされる指導法や教材について、学術的な裏付けのある研究を進めて、学会などで報告してもらおうこ

なども考えています。

ただ、私たちは、発達支援の専門家や研究者ではないので、現場で課題になっていることや、この教材は、こういう使い方をするとこの子どもにも効果があった、などの情報を現場の先生方同士が発信できる場になればと考えています。また、発達に課題のある子どものための教材は、専門家の知見を踏まえて丁寧に作っていますので、全ての子どもにとっても分かりやすいと思います。発達に課題のある子どもを支援するための教材作りに取り組んで、ネットワークを広げてきた私たちだからこそ学校現場の先生方との連携をさらに深めていきたいと思っています。

株式会社オフィスサニー
<https://office-sunny.co.jp/>
子ども学習支援「できるびより」
<https://dekirubyori.com/>
発達支援・学習支援の情報発信サイト「サニーステーション」
<https://sunny-station.com/>

